

京都大学大学院地球環境学舎 環境経済論分野

気候変動政策とエネルギー政策を経済学的視点から考える

諸富 徹

研究領域の紹介(1)

● 分野の基礎としての環境経済学

本分野の研究を進めるための基礎として、環境経済学の学習を進めます。

【参考文献】

- 諸富徹・浅野耕太・森晶寿(2008)『環境経済学講義』有斐閣

● 気候変動政策手段の経済分析と制度設計

さまざまな環境問題の中でも、とりわけ気候変動問題を中心的に取り扱っています。その中でも環境税、排出量取引制度など、政策手段の経済分析が、本分野の中心的なテーマとなります。

【参考文献】

- 諸富徹(2000)『環境税の理論と実際』有斐閣
- 諸富徹・鮎川ゆりか(2007)『脱炭素社会と排出量取引-国内排出量取引を中心としたポリシー・ミックス』日本評論社
- 諸富徹・浅岡美恵(2010)『低炭素経済への道』岩波新書
- 諸富徹・山岸尚之(2010)『脱炭素社会とポリシーミックス』日本評論社

研究領域の紹介(2)

● 再生可能エネルギーと電力システム改革

再生可能エネルギーの大量導入を可能にする電力システムのあり方、そして、「集中型電力システム」から「分散型電力システム」への移行とその制度設計について、経済学的な観点から分析し、制度設計を検討します。

【参考文献】

- 諸富徹編(2015)『電力システム改革と再生可能エネルギー』日本評論社

● 再生可能エネルギーと地域再生

再生可能エネルギーが地域再生つながるには、何が必要か、住民、企業、地域金融機関、自治体の役割は何かを、先駆的な自治体と協力しながら定性的・定量的に分析し、政策提言していくことを目標とします。

【参考文献】

- 諸富徹編(2015)『再生可能エネルギーと地域再生』日本評論社
- 諸富徹(2015)『「エネルギー自治」で地域再生！－飯田モデルに学ぶ－』岩波ブックレット